

令和8年度第2回松山市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時：令和8年8月27日（木）13:30～15:00

場 所：センタービル4階第1会議室

出席者：地域包括支援センター運営協議会委員11名、各地域包括支援センター、事務局

議 事：（1）地域包括支援センターの業務評価について

（2）基幹型地域包括支援センターの活動報告（令和8年4月～7月）

（3）その他

（1）地域包括支援センターの業務評価について

- 令和7年度の各地域包括支援センターの業務評価については、組織運営、権利擁護、包括的支援業務の各項目において全センターで高い水準が確認された。また、総合相談支援、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント・介護予防支援、地域ケア会議等についてもある一定程度の水準はクリアしているものの、センターごとに差が見られたことから、今後は、より標準化が図られるよう、定期巡回時等において助言、指導及び後方支援を継続していく。
具体的には以下のとおりである。

① 組織・運営体制
Q 職員の定着率向上のための取組は何か。
A 定着率が改善するため、職員への配慮（聞き取り・面談等）を強化している。
② 総合相談支援
Q 相談体制についての現状とどのような内容の相談が多いのか。
A 24時間電話対応を実施。一度電話を受けると特定の人から継続的にかかってくるケースもあり、その分電話の延べ件数は増えている。 高齢者に関する警察相談や銀行・郵便局などの金銭管理・情報確認関連が多い。少ないがヤングケアラーの関連相談も発生している。
③ 権利擁護
Q 権利擁護相談内容及び多機関との連携について、具体的な事例を伺いたい。
A 認知機能の低下により、虐待や経済的搾取が発生しており、伴ってネグレクトの場合も見られる。また、本人の金銭管理の能力不足の面なども同時に併せ持つ複雑化したケースが多い。必要に応じて専門の団体と連携し対応。 高齢者世帯の安心・安全確保のため、消費者被害防止・啓発活動が重要視され、特に成年後見制度の普及を早める取り組みが求められている。
④ 包括的・継続的ケアマネジメント
Q 現在は包括の業務増加により職員の負担が増している中、運営体制や業務内容に変化をもたらしているか。

A	介護支援専門員への相談件数は前年度と比較して多くなっており、複雑化・重度化しているケースが増えている。その影響から包括への負担も大きくなっているため、連携強化と支援体制の整理が必要である。
⑤ 地域ケア会議	
Q	会議に医師の参加は十分にできているか。
A	地域ケア会議には協力医が推薦されているが、医師との日程調整が難しい地域もある。休診時間に合わせてスケジュールを先に決めるなどをし、できる限り医師参加のもと会議を開催できるようにする必要がある。 地域ケア会議は「5つの機能」を満たすことが重要であり、今後も充実させていくとともに、地域課題の解決に向けて積極的に取り組む。

(2) 基幹型地域包括支援センターの活動報告

- 令和8年度4月～7月の主な活動は以下のとおりである。

業務	内容
各包括への巡回体制	業務評価や事業計画等の進捗状況を見ながら定期巡回を実施 訪問と電話の組み合わせで柔軟に対応。
虐待対応	基幹型の個別支援は 79 件。そのうち 70%が虐待のケースと大きく占めている。30 件は市長申し立てで対応。
認知症施策	第10期松山市介護保険事業計画の中で計画を策定する予定であり、現在は認知症に関するアンケート実施で実態把握。
研修・教育	新任職員・主任研修を実施し人材育成の強化を図った。 3 職種部会、センター長会議も実施。 主任介護支援専門員研修及び更新研修の受講要件に必要な行政支援を実施。
自立支援型会議	多職種から専門的助言を得ながら介護予防の視点を踏まえ、新規2事例、モニタリング2事例、計4事例の検討会議を実施。
今後課題	電話巡回情報収集の質向上、虐待対策の具体計画、認知症施策実効性向上。

(3) その他

- 新たな連携体制の構築

金銭管理に関する困難事例が多いという課題を踏まえ、今年から金融機関と懇談会を開催し、顔の見える関係の構築を試みた。認知症と思われる高齢者が金融損害を被らないよう情報共有を図る。

- 認知症普及啓発の推進

認知症普及啓発として映画上映会を実施した。一般層からも約 100 名が申し込み

し、市やセンターが伝えたい形と市民の方の目に留まりやすい形が一致していないと、普及啓発は進んでいかないと実感した。イベントについては、新たな参加者の確保や他の人々へのきっかけ作りが必須。

- **今後を見据えた支援体制の構築**

6月に社会福祉法改正が予定され、単身・身寄りのない高齢者支援が強化される。包括との連携が大切であり、独居高齢者の見守り・支援を包括がどう関与できるかを意識する必要がある。